

インタビュー Interview



熊本地方気象台 松尾信二 防災気象官

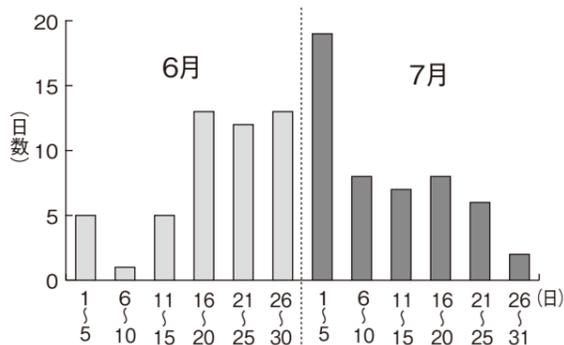
県内の気象観測・予報、地震・津波に関する業務などを行っている、気象庁熊本地方気象台の松尾信二・防災気象官に、県内における大雨の傾向などについて話を聞きました。

県内における大雨の傾向はどのようになっていいますか？

下のグラフは、昭和26（1951）年から平成22（2010）年までの6・7月を5日ごとに分けて、1日に100mm以上の雨が降った日数をまとめたものです。

7月の1～5日に大雨が集中していることから、県内では毎年この時期に、大雨になりやすい傾向があるといえます。

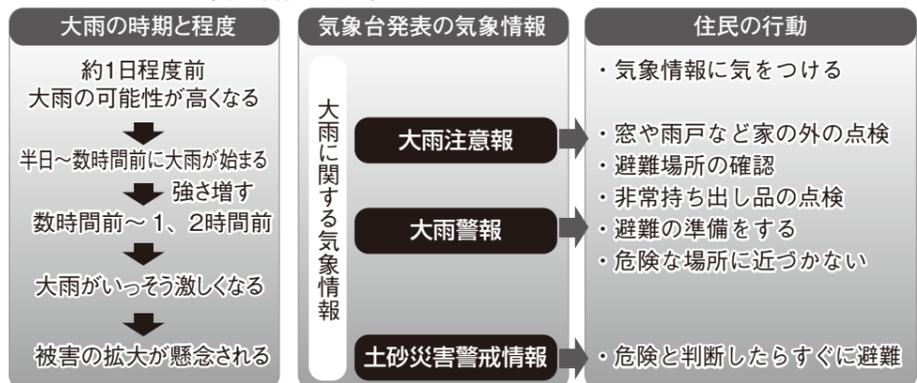
◆県内の6・7月における降水量100mm以上の日数の統計



風水害が多発する時期を迎えるにあたって、日ごろから気を付けなければならないことは？

気象台が発表し、テレビやラジオなどで伝えられる注意報・警報など最新の気象情報を常に把握すること。そして、肝心なのはその情報をもとにして自身や家族、地域ぐるみで適切な準備と行動をとっていただくということです。災害の発生するおそれがあると予想されるときに「注意報」、重大な災害が発生するおそれがあると予想されるときに「警報」を発表します。また、大雨警報の発表中に土砂災害の危険性が高まったときは、県と共同で『土砂災害警戒情報』を発表しています。これらの情報を、ぜひ活用いただきたいと思います。

◆大雨における気象情報と住民の行動の目安



●熊本気象台ホームページをご利用ください
<http://www.jma-net.go.jp/kumamoto/>

●講師を派遣して気象に関する各種講座を実施
各種団体・学校などを対象に実施しています。詳細は、熊本地方気象台・総務課 ☎096(352)7740へ。

もし災害が発生したら...

早めの避難と高齢者などへの協力

警報や避難の勧告・指示が出された場合、または勧告などがなくても長雨や大雨などで身の危険を感じたときは、事前に決めている避難場所へ速やかに避難してください。

また、高齢者や障がい者、子どもなど災害時にすばやい行動をとることが困難な人たちが家

庭や隣近所にいるときは、家族や周りの人たちが協力して災害から守りましょう。
そのためには、日ごろから家族や地域で防災について話し合っておくことが大切です。

※詳しいことは、本庁・防災交通課 ☎1111内線1231へお尋ねください。

避難時の注意点

■自動車は水に弱い！

- ・水の圧力でドアが開かなくなる
- ・水に浮いて流される
- ・電気系統がショートし窓が開かなくなる
- ・マフラーから水が入るとエンジンが止まる



大雨における

ご存じですか？

- 長靴ではなく底のしっかりした歩きやすい靴をはきましょう！



- 水深がひざくらいまでの高さになると危険！

(水深と水の流れの関係)
水の深さが2倍になれば水の抵抗は2倍になり、水の流れが2倍になれば水の抵抗は4倍になる。



防災交通課からのお知らせ

天草市防災計画の見直しなどについて

市では、防災行政を総合的、計画的に推進し、市民の生命や身体、財産を災害から保護することなどを目的として、「天草市地域防災計画」を策定しています。同計画については現在、東日本大震災を契機として、津波に関することや原子力災害への対応など、見直しを進めています。

また、津波による被害想定について、現在、県が調査を進めており今年度中に公表される予定となっています。

見直し後の同計画や津波による被害想定については、決まりしだい「市政だより天草」でお知らせします。